

2020年度第2四半期決算概要 及び2020年度業績予想

2020/10/30

 住友重機械工業株式会社
社長 下村 真司

INDEX

01 2020年度経営方針・上期総括

02 2020年度第2四半期決算概要

03 2020年度業績予想

04 トピックス

01 2020年度 経営方針

＜感染症の終息まで＞

従業員の安全、社会的要請への最大限の協力、事業基盤の維持を優先

＜経済活動の回復過程での取り組み＞

- ・ 感染症の第2波以降を想定した事業継続体制の強化
- ・ 半導体、物流、自動化関連ほか堅調需要への的確な対応
- ・ ボトムラインマネジメント
- ・ 財務規律の堅持

＜長期的視点での対応＞

- ・ 社会構造変化に適応した中期計画策定
(分散型、リモート社会、グローバルサプライチェーン再構築 等)
- ・ 積極的な研究開発投資、戦略的な設備投資の継続
- ・ 人的資本の維持、成長への継続的な取り組み

01

上期の総括と今後の対応

	上期総括	今後の対応
新型コロナウイルス感染症の従業員、生産への影響	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピン、欧米の海外拠点を中心に国内外で感染者発生もクラスター化は未然防止 ・生産影響は最小限で推移 	感染防止に万全の体制とBCP強化で事業継続を確実にする
経済活動再開後の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・半導体関連機種、プラスチック機械は想定より好調 ・国内バイオマス発電、水処理、運搬機は堅調 ・自動車関連、ロボット・工作機関連、船舶は厳しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・市場への的確な対応 ・需要に合わせた生産調整などボトムラインマネジメント継続 ・リモートによる据付支援、サービスの推進
長期的視点での対応	<ul style="list-style-type: none"> ・半導体製造装置事業 新工場建設を決定 ・ライフ_elt社（ドイツ）の株式取得 ・使用済み紙おむつのリサイクルで協業開始 	<p><長期的視点での次期中期経営計画策定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Withコロナの質的变化の織り込み ・CSRの積極推進 ・長期メガトレンドから社会課題解決を取り込む

02

2020年度第2四半期決算概要

02 2020年度 第2四半期業績サマリー

単位：億円

■ ポイント

(1) 受注高

- ・ 主要セグメントで前年同期比減少。
特に精密機械、建設機械で減少幅が大きい。
- ・ 量産機械系を中心に新型コロナウイルス感染拡大の影響受け。

(2) 売上高

- ・ 産業機械、環境プラントを除くセグメントで前年同期比減少。
- ・ 特に建設機械で減少幅が大きい。
- ・ 産業機械、環境プラントは受注残により増収。

(3) 営業利益

- ・ 機械コンポ、建設機械、船舶で減少するも、精密機械、産業機械、環境プラントが貢献し、前年同期比22%減にとどまる。

	2019/上	2020/上	増減
受注高	4,186	3,708	△478
売上高	4,247	3,917	△330
営業利益	272	212	△60
営業利益率	6.4%	5.4%	△1.0%
経常利益	258	191	△67
経常利益率	6.1%	4.9%	△1.2%
特別損益	—	—	0
税金等調整前 当期純利益	258	191	△67
親会社株主純利益	164	109	△56
親会社株主利益率	3.9%	2.8%	△1.1%
1株当たり配当	56円	9円	
為替レート(ドル)	¥108	¥106	

02 セグメント別営業利益

単位：億円

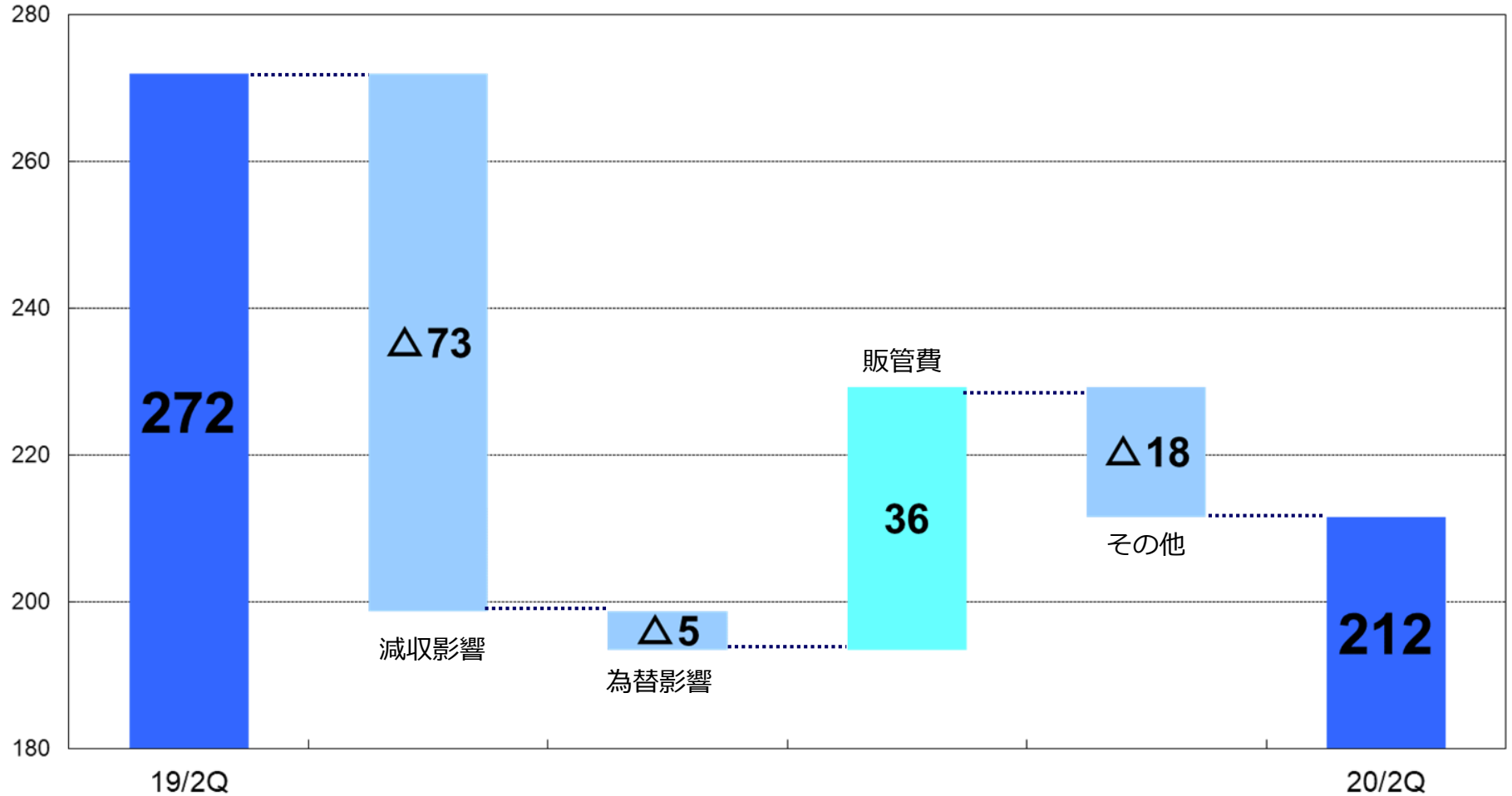
■ 対前期比較

	2019/上	2020/上	増減
<機械コンポーネント> 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け 売上減少により減益。	34	4	△30
<精密機械> プラスチック加工機械は売上減少により減益。 一方、半導体関連は堅調で増益。	75	97	22
<建設機械> 油圧ショベル、建設用クレーンともに売上 減少により減益。	118	38	△80
<産業機械> 主に運搬機械の売上増加により増益。	20	41	22
<船舶> 船舶市況は低迷。営業損失。	△14	△23	△10
<環境・プラント> エネルギープラント、水処理関連の売上 増加により増益。	28	44	16
その他	11	10	△1
計	272	212	△60

02

営業利益増減分析

単位：億円



02

連結貸借対照表

単位：億円

	2020/3末	2020/9末	増減		2020/3末	2020/9末	増減
流動資産	5,928	5,888	△40	負債	5,185	5,190	5
現預金	871	936	65	買掛債務	1,585	1,437	△148
売上債権	2,714	2,548	△166	前受金	575	576	1
たな卸資産	2,010	2,097	87	有利子負債	1,247	1,433	186
その他	333	307	△27	その他	1,778	1,744	△34
固定資産	4,033	4,104	71	純資産	4,776	4,802	26
有形固定資産	2,681	2,732	51	株主資本	4,231	4,311	80
無形固定資産	741	758	17	その他の包括利益 累計額	414	362	△52
投資その他の資産	612	615	3	非支配株主持分	132	130	△2
合計	9,961	9,992	31	合計	9,961	9,992	31
				ネット有利子負債比率	3.8%	5.0%	1.2%
				自己資本比率	46.6%	46.8%	0.1%



地域別売上高

単位：億円

	全社				油圧ショベル			
	2019年度第2四半期(19.4-19.9)		2020年度第2四半期(20.4-20.9)		2019年度第2四半期(19.4-19.9)		2020年度第2四半期(20.4-20.9)	
	売上高	(売上比率)	売上高	(売上比率)	売上高	(売上比率)	売上高	(売上比率)
北米	686	16.2%	545	13.9%	227	21.6%	125	15.7%
ヨーロッパ	490	11.5%	327	8.4%	73	6.9%	19	2.4%
アジア(除く 中国)	417	9.8%	514	13.1%	88	8.3%	71	8.9%
中国	508	12.0%	410	10.5%	288	27.4%	201	25.2%
その他	139	3.3%	110	2.8%	57	5.4%	37	4.7%
船舶海外	137	3.2%	134	3.4%				
日本	1,869	44.0%	1,878	47.9%	320	30.4%	344	43.1%
総売上高	4,247	100%	3,917	100%	1,052	100%	797	100%

※ 為替レート（ドル） 19年度第2四半期：¥108 20年度第2四半期：¥106

03

2020年度業績予想

03 2020年度業績予想

■ 通期業績予想を上方修正。合わせて年間配当予想も19円から39円に。

単位：億円

	2019年上期 実績	2020年上期 実績	2019年度 実績	(参考) 2020年度予想 (20年8月時点)	2020年度予想 (20年10月時点)
受注高	4,186	3,708	8,262	7,500	7,600
売上高	4,247	3,917	8,645	7,900	8,100
営業利益	272	212	568	260	360
営業利益率	6.4%	5.4%	6.6%	3.3%	4.4%
経常利益	258	191	527	215	315
経常利益率	6.1%	4.9%	6.1%	2.7%	3.9%
特別損益	0	0	—	△20	△20
親会社株主純利益	164	109	328	75	160
親会社株主利益率	3.9%	2.8%	3.8%	0.9%	2.0%
1株当たり配当	56円	9円	91円	19円	39円
配当性向			34.0%		29.9%
ROI C(税引後)			7.3%		4.4%
【参考】ROE			7.1%		3.4%
織込レート(ドル)	¥108 (実績)	¥106 (実績)	¥108 (実績)		¥105

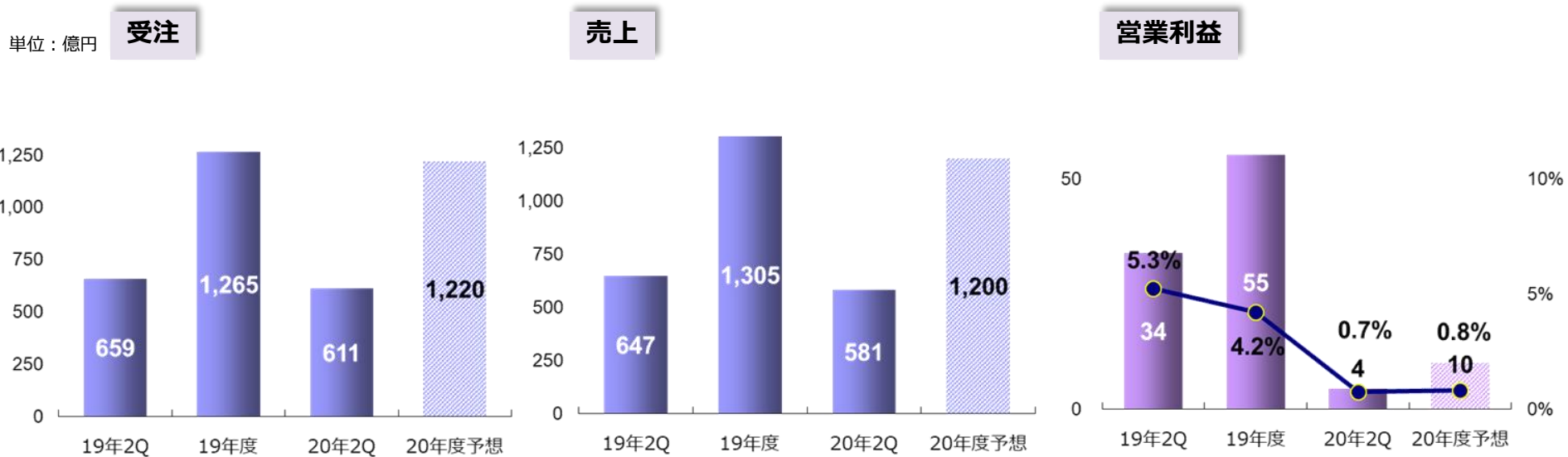
03 機械コンポーネント

20上期： 全世界的に新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け需要低調で受注、売上ともに減少。

発生費用は抑制も、売上の減少により営業利益も減少。

20年度： 市況は緩やかに回復も、主力の中型減速機や大型減速機は回復に時間を要すと見ている。

需要は全般的に低調に推移する見通し。



03 精密機械

<プラスチック機械>

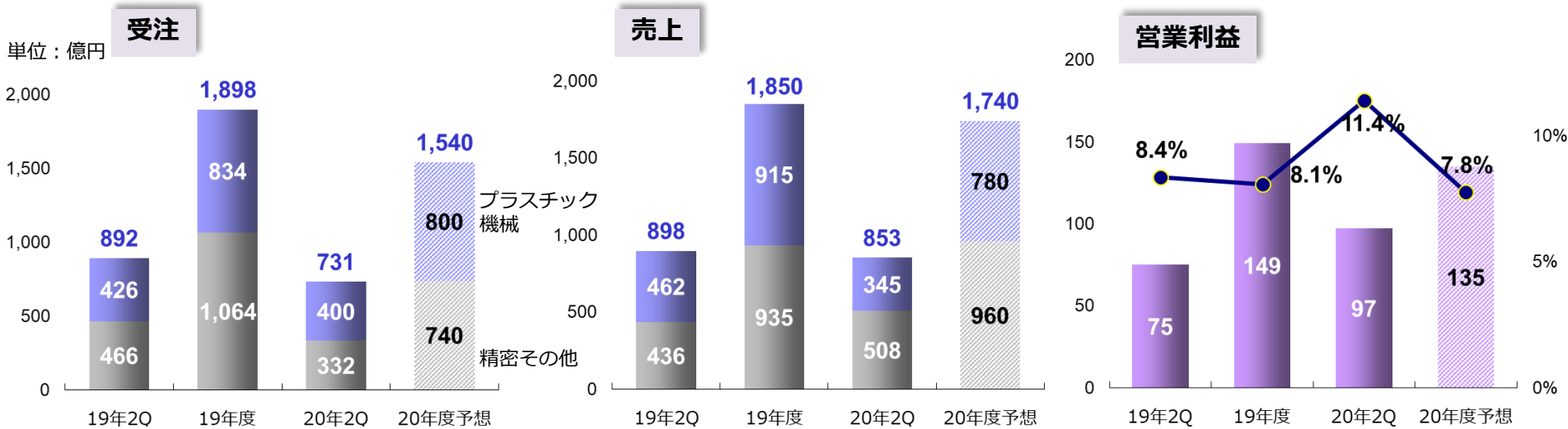
20上期： 新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり世界的に自動車関連の需要が減少したことなどから、受注、売上、営業利益ともに減少。

20年度： 一部で市況回復の兆しもあるが先行き不透明。需要は引き続き低調。

<精密その他>

20上期： 半導体関連が堅調で、受注は前年同期比で減少したものの、売上、営業利益ともに増加。

20年度： 半導体関連は足元堅調も、下期は一時的に落ち込む見通し。



03 建設機械

<油圧ショベル>

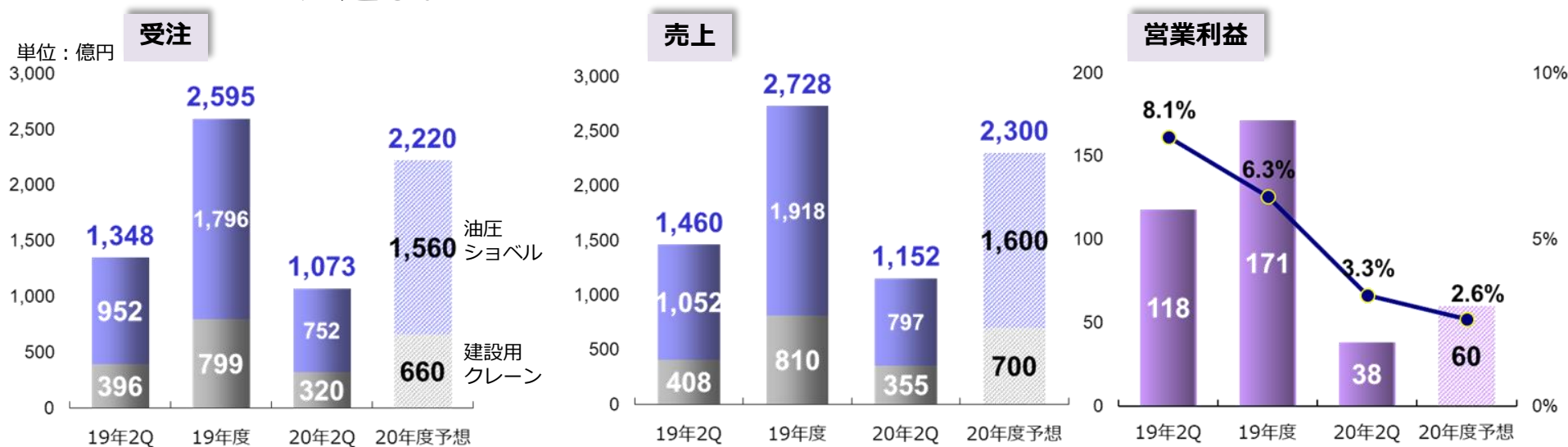
20上期： 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け中国を除く海外の需要が減少したことから、受注、売上、営業利益ともに減少。

20年度： 国内は堅調、中国は回復も、欧米、アジアの市況は引き続き厳しい。

<建設用クレーン>

20上期： 国内、北米において新型コロナウイルス感染拡大が影響したことに加え、原油価格低迷により北米地区の需要が減少したことにより、受注、売上、営業利益ともに減少。

20年度： 状況の改善が見られず、国内、北米ともに厳しい状況が継続する見通し。

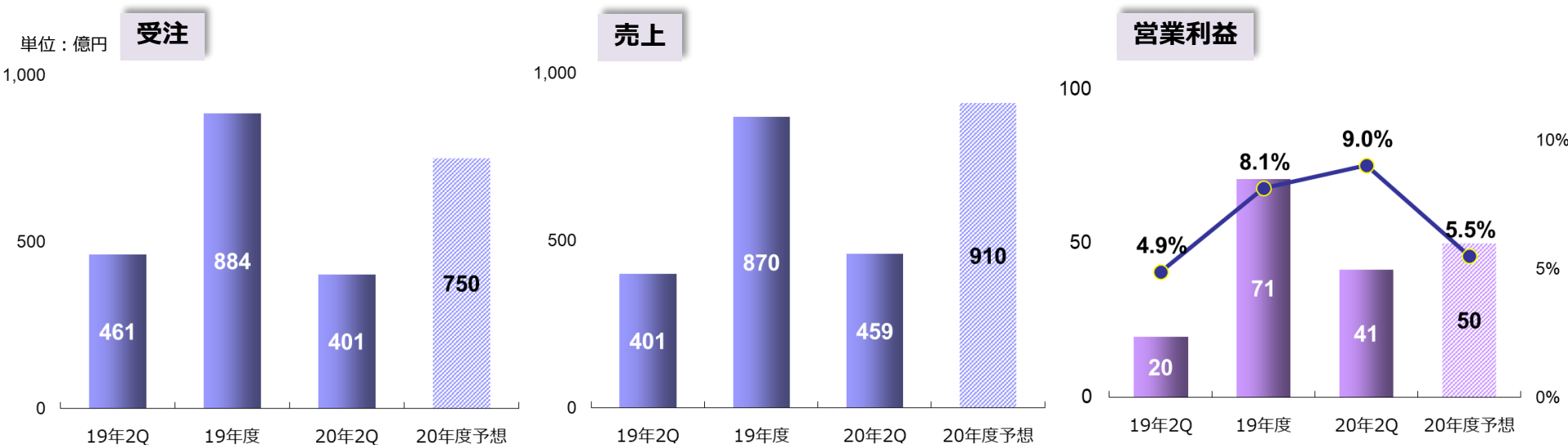


03 産業機械

20上期： 新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、医療や産業用プレスの市況が低調で受注減少。

一方、運搬機械などで受注残があることから売上増加。売上の増加に加え機種構成の変化もあり営業利益も増加。

20年度： 運搬機械事業は概ね堅調も、その他の市況は厳しい。ただし、受注残があることから、売上は確保の見通し。



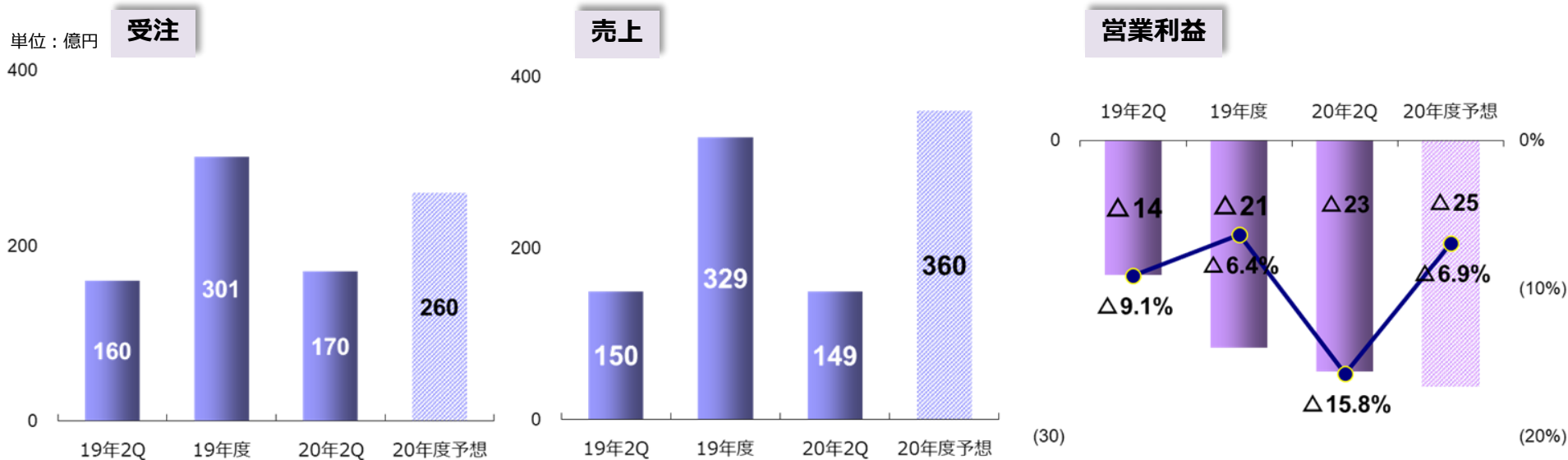
03 船舶

20上期： 船舶市況は引き続き低迷しているが、当期は前年同期比1隻増の新造船2隻を受注。

引渡しは前年同期比1隻増の2隻。

船舶修理案件が減少し売上は微減、営業損失。

20年度： 船舶市況の回復が遅れ、新造船の受注環境は厳しさ継続。

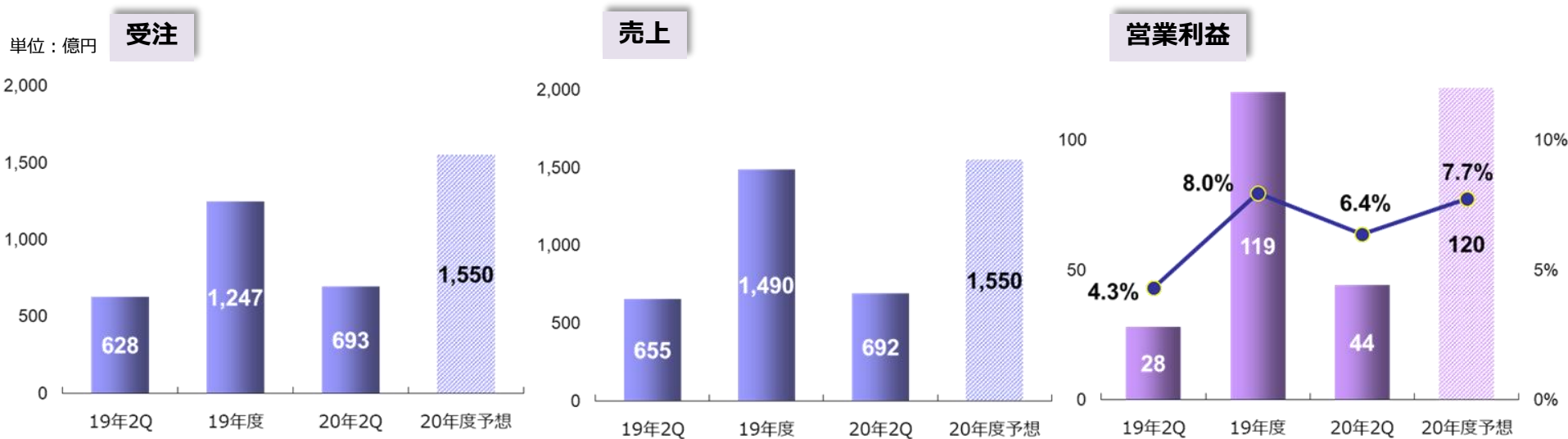


03 環境・プラント

20上期： エネルギープラント事業は、国内や欧州でバイオマス発電設備の大型案件を受注したことなどから受注は増加。主に国内の受注残により売上増加。

水処理プラント事業は、排水処理装置の案件が前年同期に比べ減少したことなどから受注は減少したが、受注残により売上増加。
上記売上増に伴い、営業利益も増加。

20年度： エネルギープラント事業、水処理プラント事業ともに堅調に推移する見通し。



03 2020年度 セグメント別業績予想まとめ

単位：億円

		2019年上期 実績		2020年上期 実績		2019年度 実績		(参考)2020年度 予想(20年8月時点)		2020年度予想 (20年10月時点)	
機械コン ポーネン ト	受注高	659		611		1,265		1,220		1,220	
	売上高	647		581		1,305		1,200		1,200	
	営業利益	34	5.3%	4	0.7%	55	4.2%	5	0.4%	10	0.8%
精密機械	受注高	892		731		1,898		1,600		1,540	
	売上高	898		853		1,850		1,640		1,740	
	営業利益	75	8.4%	97	11.4%	149	8.1%	70	4.3%	135	7.7%
建設機械	受注高	1,348		1,073		2,595		2,070		2,220	
	売上高	1,460		1,152		2,728		2,210		2,300	
	営業利益	118	8.1%	38	3.3%	171	6.3%	35	1.6%	60	2.6%
産業機械	受注高	461		401		884		740		750	
	売上高	401		459		870		900		910	
	営業利益	20	4.9%	41	9.0%	71	8.1%	35	3.9%	50	5.5%
船舶	受注高	160		170		301		260		260	
	売上高	150		149		329		360		360	
	営業利益	△14	△9.1%	△23	△15.8%	△21	△6.4%	△15	△4.2%	△25	△7.0%
環境・ プラント	受注高	628		693		1,247		1,550		1,550	
	売上高	655		692		1,490		1,550		1,550	
	営業利益	28	4.3%	44	6.4%	119	8.0%	120	7.7%	120	7.7%
その他	受注高	38		28		71		60		60	
	売上高	37		31		72		40		40	
	営業利益	11		10		24		10		10	
合計	受注高	4,186		3,708		8,262		7,500		7,600	
	売上高	4,247		3,917		8,645		7,900		8,100	
	営業利益	272	6.4%	212	5.4%	568	6.6%	260	3.3%	360	4.4%

04

トピックス

04 トピックス① 半導体製造装置事業 新工場建設を決定

イオン注入装置を製造販売する住友重機械イオンテクノロジー株式会社（住友重機械の100%子会社、SMIT）の西条工場敷地内にイオン注入装置製造用の新棟の建設を決定

<背景>

- ・ 中長期的には半導体全体の需要は今後も堅調。
- ・ 当社の主要マーケットであるイメージセンサーは、当面は高い成長率を維持。

<目的> 今後の事業拡大への対応、生産および物流の効率化

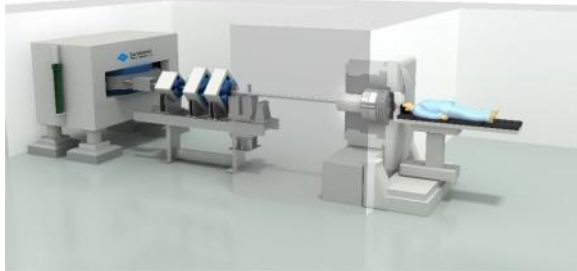
<工場概要>

- ・ 建設予定地 愛媛県西条市今在家1501番地（現SMIT西条工場北側）
- ・ 面積 延床面積 約36,000㎡（2階建て）
- ・ 竣工 2022年7月（予定）
- ・ 建設費 約110億円
- ・ 生産能力 現状の約2倍



04 トピックス② BNCTシステムが保険適用

- ・ 加速器を用いたBNCT（ホウ素中性子捕捉療法）治療システムに関して、ステラファーマ株式会社（本社：大阪府大阪市）と共同で、頭頸部がんを対象とする臨床試験を実施。
- ・ 2020年3月11日付けで、厚生労働省より新医療機器としての承認を取得し、6月1日付で保険収載。
- ・ 世界で初めてBNCTを保険診療で利用することが可能に。BNCTが切除不能な局所進行または局所再発の頭頸部がんの新たな治療選択肢の一つとして、貢献できることを期待。



04 トピックス③ ライフェルト社（ドイツ）の株式取得

自動車部品加工機、環境装置等を製造販売する日本スピンドル製造株式会社（住友重機械の100%子会社）は、ドイツの機械メーカーであるライフェルト社の株式を100%取得。同社はスピニング加工機（金属回転塑性加工機）事業では先駆けであり世界最大。両社の事業を合わせることで、最大の市場シェアを獲得。

<目的> 日本スピンドルのコア事業であるスピニング加工機事業の強化

<ライフェルト社概要>

社名：Leifeld Metal Spinning GmbH

創業：1891年

本社：ドイツ、ノルトライン＝ヴェストファーレン州アーレン

事業内容：スピニング加工機、

フローフォーミング加工機の製造販売

売上高：28百万ユーロ（2019年12月時点）

従業員：162名（＼）

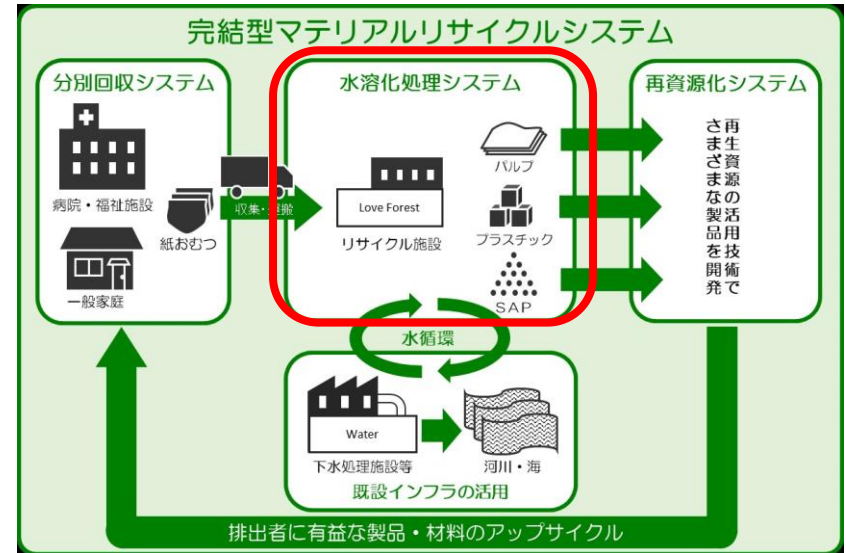
製造拠点：ドイツ

営業拠点：ドイツ、米国、中国



04 トピックス④ 使用済み紙おむつのリサイクルで協業開始

- 水処理施設の製造販売を行う住友重機械エンバイロメント株式会社（住友重機械の100%子会社、SHI-EV）は、2020年4月、トータルケア・システム株式会社（本社：福岡県福岡市）、凸版印刷株式会社と、使用済み紙おむつをリサイクルする「完結型マテリアルリサイクルシステム」の構築とその後の事業展開に関する協業を開始。



※ SHI-EV の担当範囲は赤枠部分



※参考資料：環境省『使用済み紙おむつの再生利用等に関するガイドライン』（令和2年3月）

04 トピックス⑤ CSRの取り組み

カテゴリ	20年度 上期の実績
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・日本スピンドル製造がCSR評価機関“Eco Vadis”のシルバーメダルを取得
E	<ul style="list-style-type: none"> ・第6次環境中期計画のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・気候変動対応；商品製造時のCO2総量削減とエネルギー生産性の向上 商品使用時のCO2削減と目標策定 ・海洋プラスチック問題への対応（各部門毎の活動テーマ策定） ・ビジネスユニット主体のISO14001活動への移行 ・「環境配慮製品」の拡大
S	<ul style="list-style-type: none"> ・パートナーシップ構築宣言（国内サプライチェーンの共存共栄）
G	<ul style="list-style-type: none"> ・社外取締役 1名増員

※ EcoVadisとは、2007年に設立された世界最大の企業のサステナビリティ格付けプロバイダー。包括的な企業の社会的責任（CSR）評価サービスを提供しており、評価は環境、労働慣行と人権、倫理、持続可能な資材調達の影響を含む、財務以外の幅広い管理システムを網羅している。シルバーメダルは上位25%に付与される。



住友重機械工業株式会社

将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。